

取上げる文章

池田匡史「「帰納的な説明の限界」が与える国語科への示唆」(令和六年1月10日)

論じる段落の引用

この非明示的な事柄を推論することは、国語科としての典型性を担保するものといえ、重要な点である。そこへの着眼を導くのが、帰納的な説明といえる。これを踏まえると、このような「情報と情報との関係」を批判的に、あるいは推論的に読むことができているば、帰納的な説明をしているもの、特殊事例から普遍的な主張を導いているものには注意しなければならないという方略的な読みの構えを、学習者は持つことができるはずである。そして、それは（それ自体を目的にするわけではないが、）前に確認した数学教育で掲げられる課題も薄まることにつながっていくという展開も想像に難くない。(p.31)

前提の確認 学力観の変遷と現行の学習指導要領に見られる学力観

戦後日本の教育における学力観の変遷

■ 1950年代～ 第二次世界大戦から生まれた学力観：行動主義学力観

学びを刺激に対する反応の永続的変化と規定。(例：パブロフの犬)

第三者からみて、行動が変化していれば学んだことになる。

■ 1960年代～ “できる”よりも“わかる”を重視する学力観：認知主義学力観

■ 認知主義学力観その① ピアジェによる構成主義学力観

学びは受け身で成立する行為ではなく、主体的に取り組むことで成立する。また、そのために主体的に環境と関わるのが重要である。また、知識はそのまま他者に伝達されるものではなく、学習者が既にもつ知識や経験に合わせて学習者自身というフィルターを通して、変形させて、知識のネットワークに組み込まれるものである。

■ 認知主義学力観その② ヴィゴツキーによる社会的構成主義学力観

基本は構成主義の学力観と変わらないが、構成主義の学びは個人のみで完結するのではなく、社会との関わりの中で成立するという立場。Zone of Proximal Development（発達の最近接領域）で有名。

■ 1990年代～ 実社会や実生活で有効にはたらくことを重視：状況主義

学びを社会への参加の度合いとする見方で、他者との関係性のあるリアルな社会に参加が出来ていれば学びが成立したとみなす。学んだことが社会や生活で生きているか。

先行研究の紹介。 読み比べ→討論→作文

当該文献の最後の段落で、池田氏は「このような事項を組み込む国語科学習の文脈をどのようにつくり上げていくのかについて。実践の蓄積が求められるのは確かであろう。」(p.

31)という。

実践の蓄積は既にある。実際、取上げた本テキストの「参考引用文献」に舟橋(2019)がある。舟橋(2019)は全国大学国語教育学会編『国語科教育学研究の成果と展望Ⅲ』にて重要文献・必読文献に指定されている。そこでは、トゥールミンモデルを用いて筆者の論理構造を分析した上で、同じテーマで書かれた複数のテキストを読み比べ、＜事実＞の偏りや筆者の立場を検討し、学習者が自らの意見をもつという学習活動はすでに舟橋(2003)にて行われている。その単元の概要は別紙資料にて示す。

自己調整学習と授業の組み立て

現場で働く友人、特に中学校で国語を指導する友人を中心に、文科省は現場を全くわかっていないという趣旨の発言をしている。言葉では共感しつつも内心はあまり賛成していない。

舟橋(2003)の実践で子どもたちが身に付けた力が発揮される社会状況を想像すると、真っ先に議論の場が浮かぶ。例えば国政・県政・市政等の議場においては、事実を集めて議論することが形式上求められる。しかし、民間の企業や学校の職員会議等では、論理的な思考力が役に立たない場合の方が多いだろう。(香西秀信(2007))

つまり、議論の指導ひとつとっても、その内実は論理と修辞の二面がある。

そのどちらを重視するかを学習者に選ばせ、それぞれの選択に基づいて学習活動を展開することはできるはずである。舟橋教授(202?)の言葉を借りれば、

「勉強だけに限らず、何もかも手取り足取り教えてしまうと、児童生徒が考える力を発揮できる場がなく、人はなかなか上達しません。弾丸バスツアーではなく、修学旅行の班別行動のように、児童生徒が主体的に学習に取り組める場を提供することが大切なのです」

にある、「班別行動」のような学習活動を現場で実践することができるはずである。これはそんなに難しいことなのか。

とはいえ、現場で働く新米教師は難しいというので、その難しさがどこにあるのか。もうすぐに現場に出る身であるため、できる準備はしておきたい。

また、自分で自分の学習を選択し、調整するからこそ、主体的に学習にとりくめるはずであり、逆に、そうするのが主体的に学手に取り組む行為であるはずである。

問いかけ

上記のような学習活動を行うことは不可能だと思うか(いいかえると、文科省は現場のことをわかっていないと思うか。)。また、それはなぜか。